

モロッコ

Kingdom of Morocco

	2012年	2013年	2014年
①人口：3,376万人（2014年）			
②面積：44万6,550km ²			
③1人あたりGDP：3,291米ドル （2014年）			
④実質GDP成長率（%）	3.0	4.7	2.4
⑤消費者物価上昇率（%）	1.3	1.9	0.4
⑥失業率（%）	9.0	9.2	9.9
⑦貿易収支（100万モロッコ・ディルハム）	△173,043	△171,300	△172,120
⑧経常収支（100万モロッコ・ディルハム）	△80,648	△66,166	△52,222
⑨外貨準備高（100万米ドル）	16,356	18,404	19,555
⑩対外債務残高（グロス）（100万モロッコ・ディルハム）	212,713	234,746	277,735
⑪為替レート（1米ドルにつき、モロッコ・ディルハム、期中平均）	8.63	8.41	8.41

〔注〕⑦⑧の2013年、③④⑦⑧の2014年は暫定値。④は2007年基準（2014年に基準年を1998年から2007年に変更）。⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①④～⑥：モロッコ高等計画委員会、②：国連、③⑨⑩：IMF、⑦⑧：モロッコ為替局、⑩：モロッコ経済・財政省

■農水産業の不振で経済成長が鈍化

2014年のモロッコ経済は、前年に歴史的豊作を記録した農業生産が天候不良で減少、非農業分野でも建設業や観光業が冷え込み、実質GDP成長率は2.4%と、前年の4.7%を大きく下回る結果となった。2014年は穀類が前年比29.5%、野菜類が10.4%の収穫減、タコ・イカ類や海藻（テングサ等）の漁獲減により、農水産業は前年の18.6%増から2.6%のマイナス成長となった。

同国の農水産業はGDPの約15%を占め、労働人口の約4割が従事している。農水産業の不振による民間消費の減退がこれまでも経済成長に多大な影響を及ぼしてきた。

需要項目別でみると、民間最終消費支出が農水産業の不振で農家所得の落ち込みの影響を受けて減退した。国内総固定資本形成は0.4%減となり、2年連続でマイナスを記録した。財貨・サービスの輸出は6.3%増と好調だった。

年後半は鉱業・製造業を中心に回復基調にあったことから、政府は2015年の成長率を4.8%と予測、再び成長軌道に乗ることが期待されている。

2014年の消費者物価上昇率は前年の1.9%から0.4%に低下した。同国は燃料と基礎食料品を輸入に依存しており、政府は経済の安定化と貧困削減の対策として多額の

表1 モロッコの需要項目別実質GDP成長率

	（単位：%）		
	2012年	2013年	2014年
実質GDP成長率	3.0	4.7	2.4
民間最終消費支出	4.1	3.7	3.2
政府最終消費支出	8.5	4.2	1.8
国内総固定資本形成	3.6	△1.5	△0.4
財貨・サービスの輸出	2.7	0.9	6.3
財貨・サービスの輸入	3.3	0.9	1.8

〔注〕2014年は暫定値。2014年に、基準年を1998年から2007年に変更。
〔出所〕モロッコ高等計画委員会

補助金を投入している。補助金支出は物価を安定させているものの、財政赤字の一因にもなっている。

■自動車分野の輸出拡大で貿易赤字が縮小

2014年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比8.3%増の2,000億モロッコ・ディルハム（以下、MAD）、輸入は1.3%増の3,861億MADであった。自動車・同部品の輸出が大幅に拡大した一方、国際的な原油価格の下落で原油や石油製品の輸入が減り輸入全体の伸びが抑えられたことから、貿易赤字はやや改善して前年比5.4%減の1,861億MADとなった。

輸出品目をみると、モロッコの主要資源であるリン鉱石（世界の埋蔵量の4分の3を保有）やリン製品（リン肥料、リン酸液等）が全体の約2割を占めている。このほか、自動車用ワイヤーハーネス（構成比10.2%）、自動車（9.6%）、衣料品（女性用）（4.7%）、イワシ加工品（2.9%）やタコ・貝類（2.4%）などの水産品が主要品目である。リン鉱石・リン製品は2012年には輸出総額の4分の1を占めていたが、海外市場の需要の低下と国際価格の低迷により輸出に占める割合が減少傾向にある。一方、ルノー・日産グループがモロッコ北部のタンジェ工場生産する「ダチア」ブランドの低価格車や、日系メーカー数社が現地生産するワイヤーハーネス等の自動車部品の輸出は順調に成長している。2014年は自動車産業全体の輸出が前年比26.8%増となり、モロッコ最大の輸出産業となることが有望視されている。また政府は航空産業の育成にも力を入れている。航空部品の構成比は1.6%とまだ小さいものの、前年比で6.6%増加しており、今後の動向が注目されている。

輸入は、石油製品、原油、天然ガスや石炭等の燃料関

表2 モロッコの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万MAD、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
自動車用ワイヤーハーネス	17,715	20,353	10.2	14.9	石油製品	38,150	35,759	9.3	△6.3
自動車	12,620	19,232	9.6	52.4	原油	36,459	28,101	7.3	△22.9
リン肥料	12,551	13,821	6.9	10.1	天然ガス	19,125	19,215	5.0	0.5
リン酸	12,053	12,781	6.4	6.0	自動車	12,639	13,785	3.6	9.1
衣料品 (女性用)	8,808	9,469	4.7	7.5	小麦	8,221	12,696	3.3	54.4
リン鉱石	9,097	8,203	4.1	△9.8	自動車用ワイヤーハーネス	6,659	8,870	2.3	33.2
石油製品	8,810	6,057	3.0	△31.2	硫黄	4,392	5,843	1.5	33.0
イワシ加工品	5,713	5,900	2.9	3.3	石炭	3,675	4,960	1.3	35.0
タコ・貝類	4,548	4,703	2.4	3.4	自動車用車体	4,368	4,281	1.1	△2.0
半導体デバイス	4,177	4,263	2.1	2.1	トウモロコシ	4,071	4,247	1.1	4.3
合計 (その他含む)	184,626	200,013	100.0	8.3	合計 (その他含む)	381,277	386,118	100.0	1.3

[注] 2013年、2014年は暫定値。

[出所] モロッコ為替局

表3 モロッコの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位：100万MAD、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
スペイン	35,106	43,945	22.0	25.2	スペイン	51,638	51,673	13.4	0.1
フランス	39,855	41,093	20.5	3.1	フランス	49,452	51,309	13.3	3.8
ブラジル	10,561	9,164	4.6	△13.2	中国	26,486	29,500	7.6	11.4
イタリア	7,031	8,588	4.3	22.2	米国	28,643	26,920	7.0	△6.0
インド	6,443	7,274	3.6	12.9	サウジアラビア	23,522	20,899	5.4	△11.1
米国	7,202	7,192	3.6	△0.1	ドイツ	18,283	20,057	5.2	9.7
英国	5,089	5,873	2.9	15.4	イタリア	20,478	19,293	5.0	△5.8
ドイツ	5,089	5,663	2.8	11.3	ロシア	16,033	16,336	4.2	1.9
オランダ	5,570	5,561	2.8	△0.2	トルコ	11,676	14,094	3.7	20.7
トルコ	3,559	4,589	2.3	28.9	アルジェリア	10,799	11,161	2.9	3.3
合計 (その他含む)	184,626	200,013	100.0	8.3	合計 (その他含む)	381,277	386,118	100.0	1.3

[注] 2013年、2014年は暫定値。

[出所] モロッコ為替局

連が輸入総額の22.8%を占め、次いで自動車・同部品 (構成比8.6%)、小麦、トウモロコシ、油、砂糖等の基礎的食料品 (6.0%)、リン酸・肥料生産に使用される硫黄 (1.5%) である。

前述のとおり、モロッコは燃料や基礎的食料品を輸入に依存しており、過去10年間貿易赤字が続いている。また、人口の1割にあたる約300万人が海外に移民している。海外からの送金と観光収入が同国の貴重な外貨収入源となっているが、貿易赤字を穴埋めするには至っておらず、経常収支でも赤字が続いている。

エネルギー・鉱山・水利・環境省によると、経済成長に伴う国内電力需要の伸びは今後年率6%を超え、約10年ではほぼ倍増すると予測され、その対応が急務となっている。しかし、発電容量の約7割を輸入燃料に依存していることから、今後の燃料調達は大きな課題である。これを踏まえて政府は再生可能エネルギー (太陽・風力・水力) の利用拡大を進めるほか、2014年12月には液化天然ガス (LNG) 開発国家計画を発表、総額46億ドルをかけて2025年までにLNG貯蔵ターミナルやガスタービン

複合サイクル発電所を建設し、石油に代えて高効率のLNG発電の割合を高める計画だ。

国別では、2014年に輸出を急拡大させたスペイン (構成比22.0%) がフランスを抑えて輸出入ともに最大の貿易相手国となった。スペインへの輸出額は前年比25.2%増の439億MAD、次いでフランス (20.5%) が3.1%増の411億MADであり、この2カ国を含むEU28が輸出全体の6割超を占めている。輸入では、スペイン (構成比13.4%) が前年比0.1%増の517億MAD、次いでフランス (13.3%) が3.8%増の513億MADとなり、やはりEU28からの輸入が全体の5割超を占めている。また中国 (7.6%) は前年比11.4%増の295億MADを記録し、米国を抜いて3位の輸入相手国となった。

政府はすでにEU、米国、トルコなど約50の国・地域とFTAを締結、カナダやチリとも交渉中である。また、2008年に中東・北アフリカ諸国で初めてEUの「アドバンスト・ステータス」を獲得、農水産業やサービス分野も含めた包括的なEU域内市場との自由貿易圏形成を進めている。

表4 日本の対モロッコ主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
自動車	72,116	112,589	47.2	56.1	魚介類	164,328	135,008	54.8	△17.8
乗用車	20,819	58,833	24.7	182.6	衣類・雑貨	50,733	61,353	24.9	20.9
バス・トラック	46,985	53,756	22.5	14.4	衣類・同付属品	43,086	54,876	22.3	27.4
ゴム製品	27,546	27,513	11.5	△0.1	バッグ類	2,683	2,511	1.0	△6.4
電気回路機器	14,273	21,489	9.0	50.6	非鉄金属	5,482	8,066	3.3	47.1
繊維用糸・繊維製品	6,739	8,502	3.6	26.2	化学製品	5,726	7,381	3.0	28.9
建設用機械、荷役機械	4,550	7,870	3.3	73.0	半導体等電子部品	4,006	4,840	2.0	20.8
合計 (その他含む)	184,200	238,419	100.0	29.4	合計 (その他含む)	281,783	246,353	100.0	△12.6

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース) から作成

■フランスと中東からの投資が優勢

モロッコが替局によると、2014年のモロッコの対内直接投資額(報告・届け出ベース、フロー)は前年比6.7%減の365億MADであった。産業別では、不動産業が最大のシェア(29.5%)を占め、前年比で42.0%増加した。シェア2位の製造業(27.1%)は35.7%の大幅減、観光業(9.3%)は1.5%増、商業(7.1%)は14.2%増となった。

国別ではフランスが118億MADで全体の32.4%を占めており、過去5年を通じて最大の投資国となっている。次いでアラブ首長国連邦が45億MAD(12.3%)、サウジアラビアが39億MAD(10.6%)、米国が27億MAD(7.3%)となっている。中国のシェアは0.6%と低いものの、前年比で4倍となった。中国はすでに華為技術(通信事業)や南京浦鎮車両廠(鉄道車両製造)などが事業を展開しており、2014年には南京浦鎮車両廠がモロッコ鉄道・工業設備公社(SCIF)と鉄道車両の製造および販売面で事業提携を行い、アフリカ市場向けの鉄道車両をモロッコで製造すると発表した。2014年11月に北京で開催された第1回モロッコ・中国経済フォーラムでは、両国の間でエネルギーや鉱物資源、金融、観光など幅広い分野でビジネス協力の合意がなされた。

モロッコを欧州や中東、アフリカ市場向けの製造拠点とする投資に加え、近年ではアフリカに進出しているモロッコ企業への投資も進む。アラブ首長国連邦の大手通信事業者エティサラートは、2014年に西アフリカで事業を展開するモロッコ・テレコム株式53%を取得、同社の事業地域を拡大した。また、1人当たりGDPが3,000ドルを超えたことで国内消費市場の拡大を見込んだ投資も増えている。

■日本車のブランド力と日系メーカーの存在感

日本の「貿易統計」(通関ベース)によれば、2014年の対モロッコ貿易は、輸出が前年比29.4%増の2億3,800万

ドル、輸入が12.6%減の2億4,600万ドルだった。これにより日本の貿易赤字は790万ドルとなり、前年比91.9%減と大幅に改善した。

日本の最大輸出品目は自動車で、全体の47.2%を占めている。このうち乗用車は前年比2.8倍の5,900万ドル、バス・トラックは14.4%増の5,400万ドルであった。日本から輸入する自動車には高率の関税が課されており、欧米メーカーに比べ日系メーカーに極めて不利なビジネス環境となっているが、現地における日本ブランドへの根強い信頼が垣間見られる結果となった。

輸入は、魚介類が前年比17.8%減となったものの、輸入全体の5割超を占めている。主な輸入品目はタコ等軟体類であるが、そのほかに寒天培地などに用いられるテングサの輸入が目立つ。モロッコの漁業資源の保全や輸出先の多角化などを背景に日本への輸出は減ってきているが、モロッコ政府は経済安定化のために農水産業の開発に力を入れており、2014年9月にはアジズ・アハヌッシュ農業・海洋漁業相がモロッコ企業を伴って訪日するなど、農水産分野の産業育成やビジネス開発における日本の協力に対する期待は高い。

日本の2014年の対モロッコ投資額は400万MADであり、過去5年の投資額の平均をみても1,300万MADと極めて少額である。これは日本とモロッコの間で租税条約が締結されていないことが一因にある。このため、現地の日系企業は二重課税を避けて自社の欧州あるいは中東拠点などから迂回して投資を行っている。しかしながら現地日系企業の存在感は大きく、モロッコ最大の輸出産業に育ちつつある自動車分野では、前述のとおり日系メーカーが自動車部品製造で大きく貢献しており、特に住友電装の現地法人は国営リン鉱石公社(OCP)に次いで同国2位の雇用を創出している。また、発電分野では、三井物産が低環境負荷技術を生かして2件の石炭火力発電事業を展開している。